

令和4年度金沢マラソン大学連携成果発表会
令和5年3月26日(日)15:30~17:00
金沢学生のまち市民交流館 交流ホール

ボランティア継続参加者がみた2022大会

金沢大学スポーツ社会学研究室

武藤 芽久(地域創造学類 3年)

板倉 里乃(地域創造学類 3年)

塚本 まい(地域創造学類 3年)

戸谷なつみ(地域創造学類 3年)

道下 真優(地域創造学類 3年)

佐川 哲也(地域創造学類 教授)

本報告のポイント

- (1) 直近連続参加者に注目して分析する
- (2) 直近連続参加者の特徴と期待を明らかにする
- (3) 大会優先出場枠の効果を探る

ボランティア調査とその標本数

2022大会

ボランティア総数	4、816人	回収数	回収率
標本数	4、816人	1、516	31.5%

回答者全体の特徴

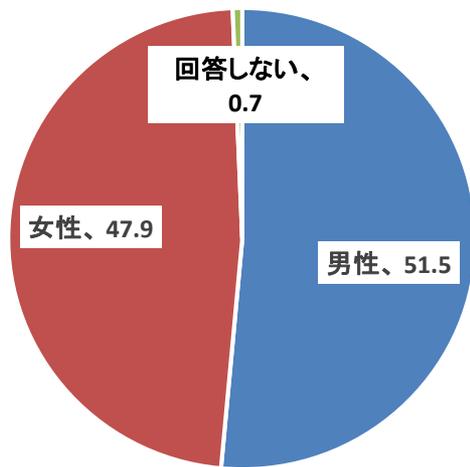


図1 性別

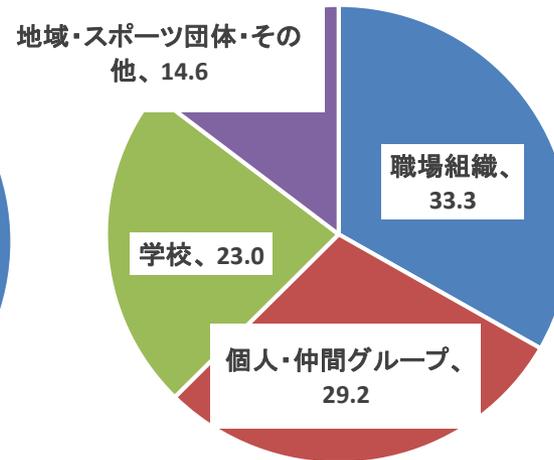


図2 集団属性

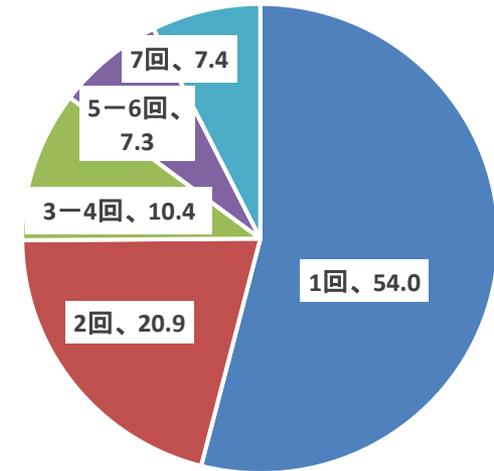


図3 参加回数

- 男女の比率は、ほぼ同じ
- 職場組織 > 個人・仲間 > 学校 > 地域・スポーツ団体
- 1回が半数強、2回が2割強

直近連続参加者の特徴

表1 直近連続参加者数

	人数	%
直近3回連続	46	16.8
直近4回連続	50	18.2
直近5回連続	33	12.0
直近6回連続	33	12.0
直近7回連続	112	40.9
合計	274	100.0

・直近7回連続参加が
112人(40.9%)と最も多い

*:各集団に重複する者がいないように処理している

直近連続参加者の特徴

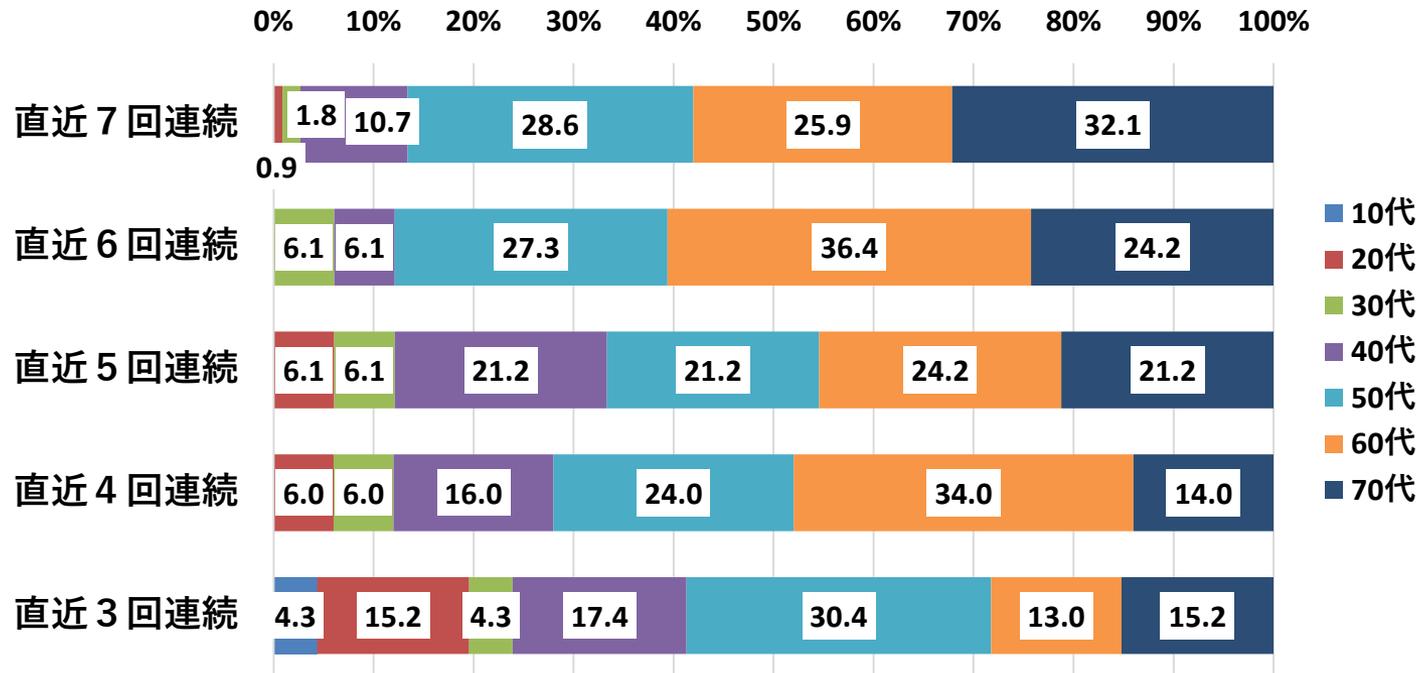
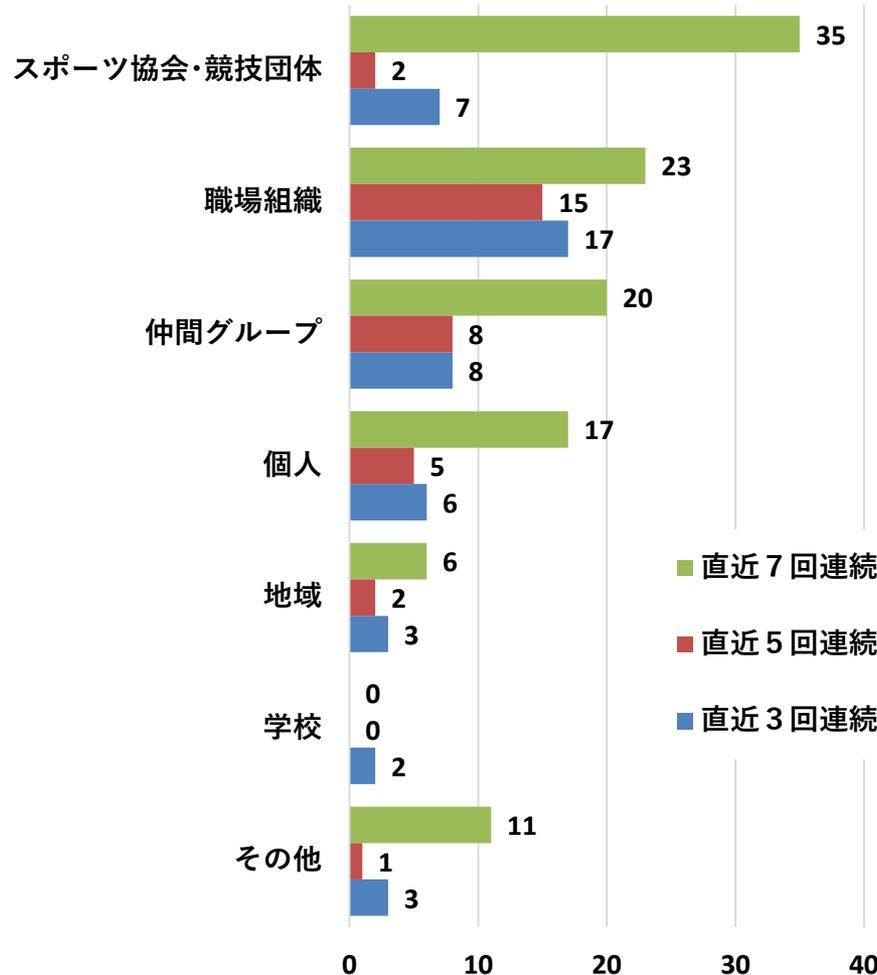


図4 年代からみた直近連続参加者の特徴

- ・直近6・7回参加者は50～70代が多い
- ・直近3・4・5回参加者は10～40代が多い
- ・70代は参加回数増にともない増加する

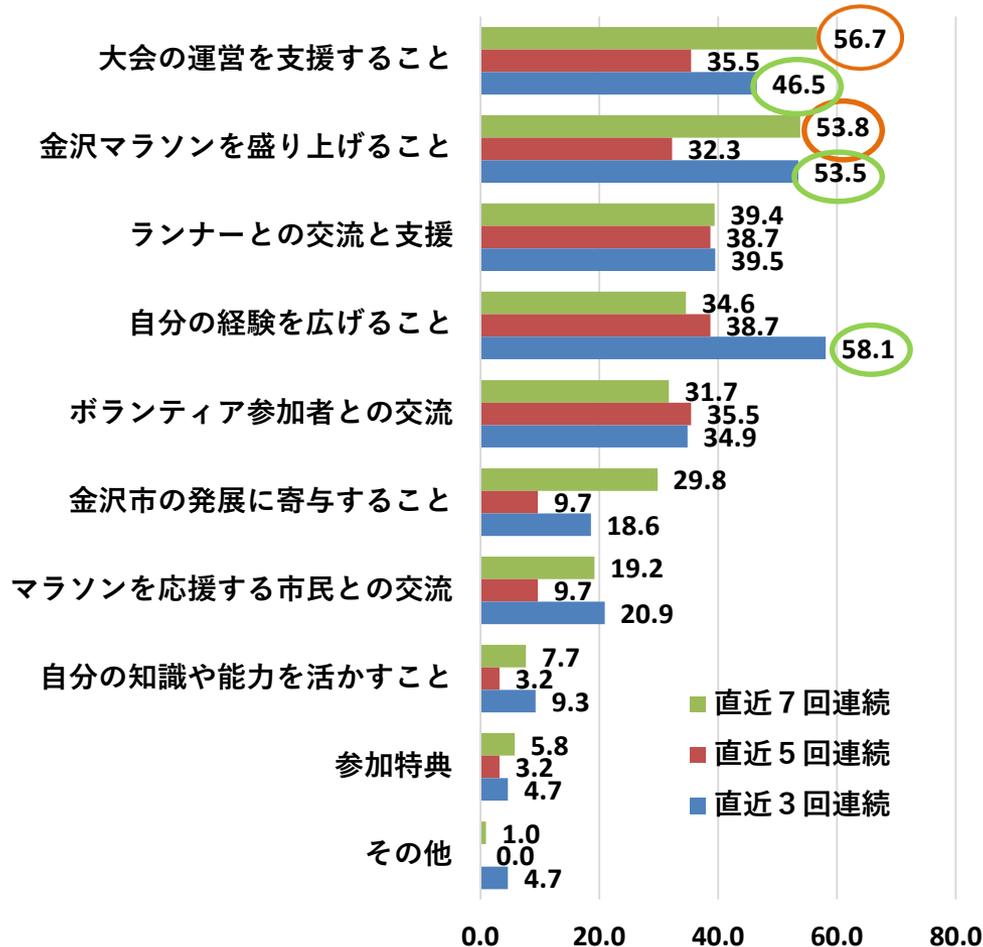
直近連続参加者の参加立場



- ・スポーツ協会・スポーツ競技団体は、7回が最も多い
- ・職場組織は、いずれの回数でも多い
- ・仲間グループは、7回が多い
- ・個人でも、7回が多い

図5 参加立場からみた連続参加者の特徴

直近連続参加者の期待



直近7回連続参加者の期待は、「大会の運営を支援すること」「金沢マラソンを盛り上げること」

金沢マラソンの運営と盛り上げへの期待値が高い

直近3回連続参加者の期待は、「自分の経験を広げること」「金沢マラソンを盛り上げること」「大会の運営を支援すること」

直近連続参加回数が少なくても高い割合を示す

図6 直近連続3・5・7回参加者の期待の変化

2019大会では、連続参加者の期待が高まる傾向であったが、2022大会でも、期待値がやや下がったものの(コロナの影響か?)、依然として高い割合。 7

直近6・7回連続参加者の期待と満足

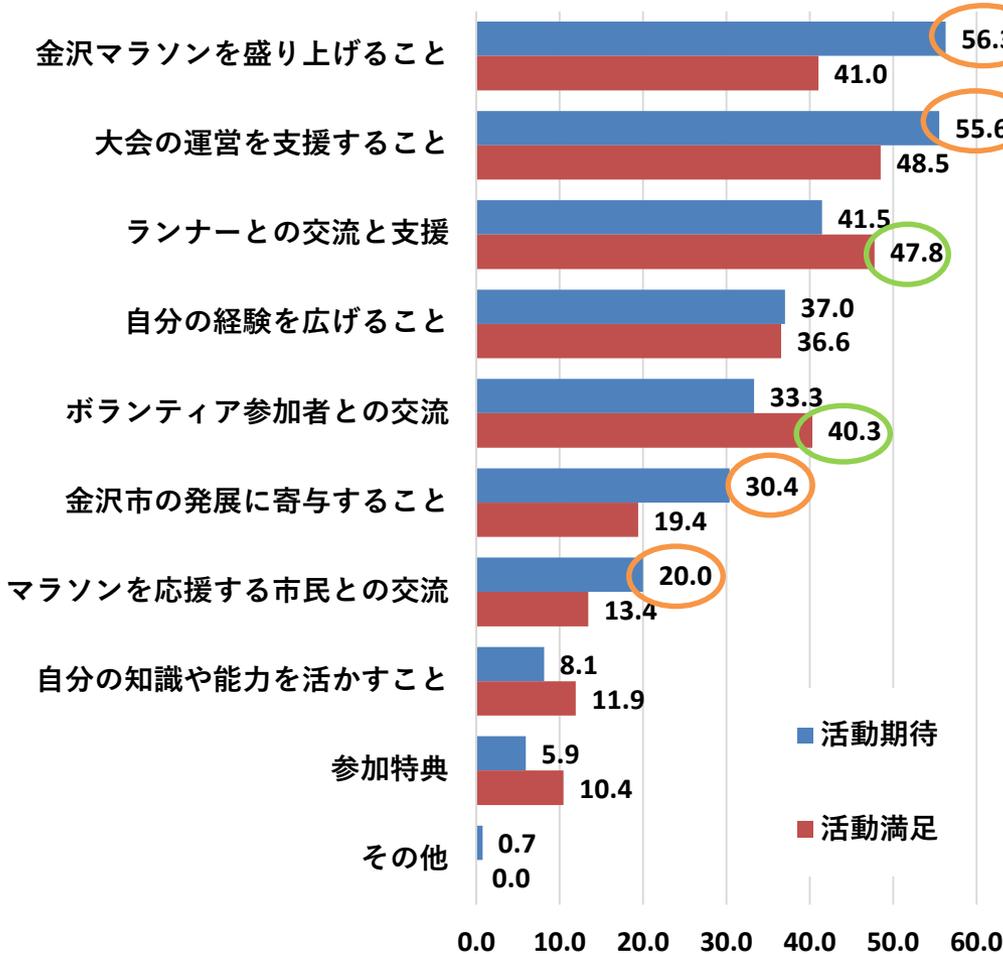


図7 直近6・7回参加者の期待と満足

【期待>満足】

マラソンを盛り上げること
大会の運営を支援すること
金沢市の発展に寄与すること
マラソンを応援する市民との交流

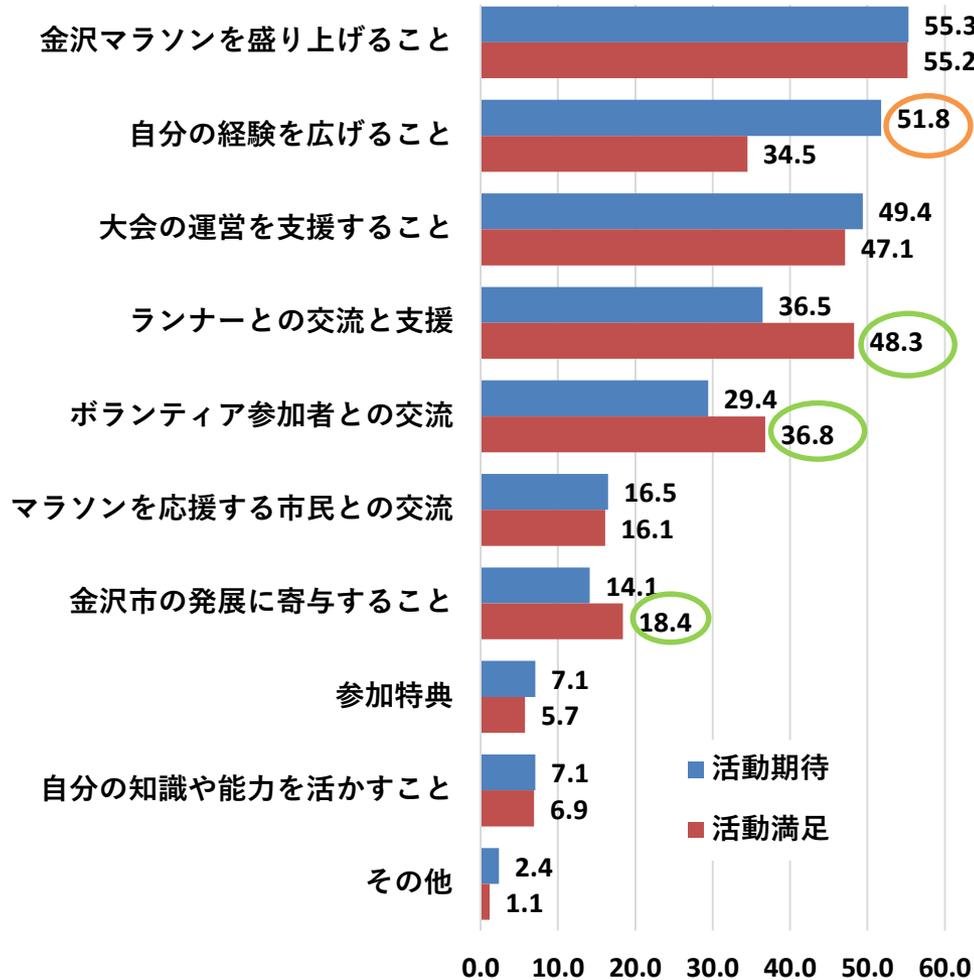
ボランティア参加理由の第一は、
金沢市のため、地域発展のため、
金沢マラソンを成功させよう

【期待<満足】

ランナーとの交流と支援
ボランティア参加者との交流

ランナーやボランティア同士の交流は満足が期待を想定以上に上回る

直近3・4回連続参加者の期待と満足



【期待 < 満足】

ランナーとの交流支援
ボランティア参加者との交流

ランナーやボランティア同士の交流は満足が期待を上回る

直近6・7回と違って、

【期待 > 満足】

自分の経験を広げること

自己成長に期待をしている

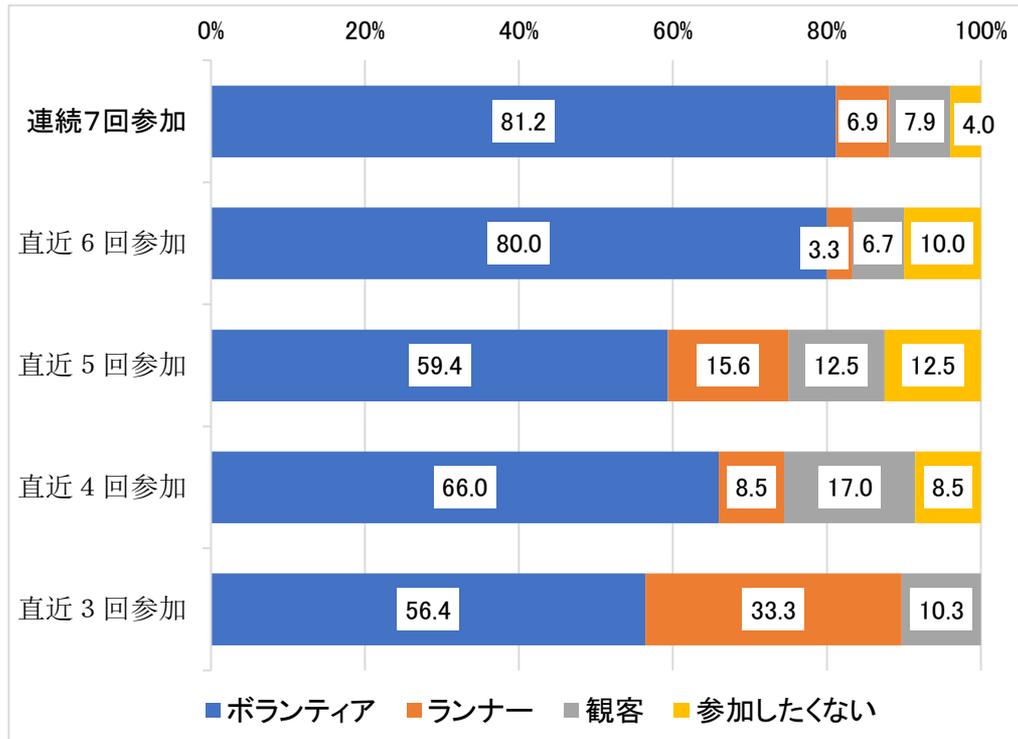
【期待 = 満足】

金沢マラソンを盛り上げること

期待通りに満足した

図8 直近3・4回参加者の期待と満足

連続参加者の次大会参加意向

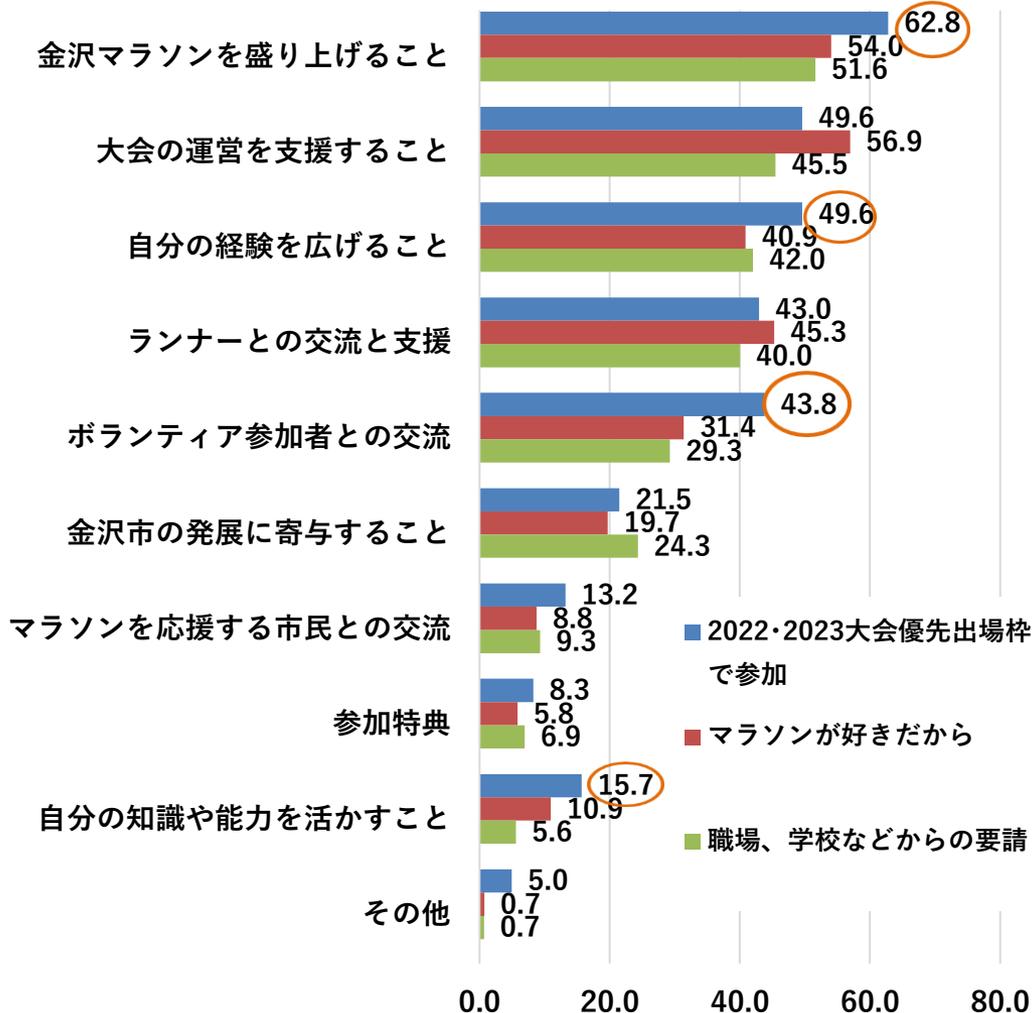


- ・連続7・6回参加者は、「ボランティア」に8割が参加したい
- ・連続5回参加者から、「ボランティア」希望が6割に減少
- ・連続3回参加者では、「ランナー」希望が3割に増加
「参加したくない」が0割

図9 2023年大会への参加意向

6回と7回には差がなく、同じ集団と見なせる
6回以上参加者は、**常連ボランティア**と呼べる

大会優先出場枠の効果



・大会優先出場枠参加者は、「金沢マラソンを盛り上げること」「自分の経験を広げること」「ボランティア参加者との交流」「自分の知識や能力を活かすこと」での期待値が高い

ランナー経験ボランティアは、参加意欲が高く、複数の立場を経験した者の参加が、他のボランティアにより影響を与え、ボランティアの質向上に寄与する

大会優先出場の創設がボランティアの質向上により効果を与えた可能性がある

図10 参加動機からみたボランティアへの期待

本報告の総括

2019年の大会報告と同様に、
連続参加がボランティアの参加期待を高めていた

3～5回の連続参加は、傾向が安定しない
6回以上参加者は、傾向が安定しており、
常連ボランティアと呼べる貴重な存在と言える

大会優先出場枠がランナーボランティアを増加させた
→ランナーの視点でボランティア質向上が期待できる

ボランティア全体の過半数は初回参加者であり、
引き続き、多くの初回参加者への働きかけが必要

目標 ボランティア間の経験と情報共有を高めよう！

ご清聴ありがとうございました



ボランティアの皆様お疲れさまでした！